平成31年1月21日

新聞: 平成 31 年 2 月 1 日 (金) 付 朝刊 ラジオ・テレビ・ネット:

平成 31 年1 月 31 日 (木) 17:00

報道発表

奈良市教育委員会 文化財課 埋蔵文化財調査センター

平城京跡第 727 次調査 (左京九条三坊五坪) の発 掘調査成果について

平城京跡第 727 次調査 (左京九条三坊五坪) の発掘調査成果について、下記の日程で発表 (説明) します。

- 1. 発表日時 平成31年1月31日(木)14:00~
- 2. 発表場所 発掘調査現場 (西九条町4丁目1番地の11他)
 - ・別紙地図を参照のうえ、お越しください。
 - ・入口は現地東側です。
 - 10台分ほどの駐車場がございます。
 - ・小雨決行いたします。
- 3. 説明内容 別紙のとおり

◆お問い合わせ先◆ 奈良市埋蔵文化財調査センター 電話 0742-33-1821

平城京跡第 727 次調査(左京九条三坊五坪)の発掘調査成果について

- 1. 調査地 奈良市西九条町4丁目1番地の11他
- 2. 調査期間 平成 30 年 7 月 23 日から平成 31 年 3 月末 (予定)
- 3. 調査目的 建物建設に伴う事前の発掘調査
- 4. 調査面積 6,525 m²(計画面積)のうち 2,700 m²(2 回目)
- 5. 調査機関 奈良市教育委員会教育総務部 文化財課埋蔵文化財調査センター 国際文化財株式会社 西日本支店

概要

今回の発掘調査では、平城京の南端にあたる九条大路の北側に隣接する、五坪内の宅地利用 状況が明らかになりました。五坪内の前回の調査では、1坪を1/16 分割した小規模宅地が見つかりましたが、今回新たに1/32 分割した宅地が見つかりました。また、奈良時代的な宅地分割方法から平安時代的な四行八門制の宅地分割方法へ変遷したことが判明し、当時の宅地班 給制度を考える上で重要な成果が得られました。

平城京左京九条三坊五坪東半分の小規模宅地の様相と変遷が明らかに

-四行八門制の宅地を確認-

五坪の東半部のほぼ全域を調査した結果、坪内を通路や溝で細分化した小規模宅地を複数確認しました。宅地は1坪を1/16分割と1/32分割したものが見つかり、奈良時代後半から平安時代初頭にかけての小規模宅地の変遷が明らかになりました。

小規模宅地の様相と変遷

五坪では奈良時代後半から平安時代初頭にかけて、大きく3期(I~Ⅲ期)の時期変遷があることが判明しました。

I期 東西南北方向の坪内通路が設定され、坪内を 1/16 分割した方形の宅地が設けられます。 II期 坪内を東西南北に四分し、 1/16 分割した方形の宅地が設けられます。 I 期と異なり東西方向の坪内通路はなく、五坪中央の南北方向の坪内通路のみ設置されます。この場合、各宅地 の出入口は、東西いずれかに隣接する道路側と想定されます。

Ⅲ期 坪内を東西に四分、南北に八分し、1/32 分割した長方形の宅地が設けられます。南北 方向の坪内通路はⅢ期から引き続き機能しており、各宅地の出入口も、東西いずれかに隣接する 道路側と想定されます。

Ⅱ・Ⅲ期のいずれの宅地も、塀・溝等の明瞭な宅地の区画施設は見当たりません。しかし1/32 分割した宅地内に井戸1基が設けられており、井戸1基と数棟の建物を単位とした宅地が復原で きます。

Ⅲ期の宅地配置は、平安京の宅地班給基準の四行八門制と類似し、これを適用していたものと 考えられます。また、Ⅰ期の1/16分割した方形の宅地割は、平城京跡の発掘調査で従来見られるもので、奈良時代的な宅地分割方法といえます。

今回の調査では、これら奈良時代的な宅地分割方法から、平安時代的な四行八門制の宅地分割 への変化の過程が明らかになり、この過程が平城京内で発見された点が非常に大きな成果といえ ます。

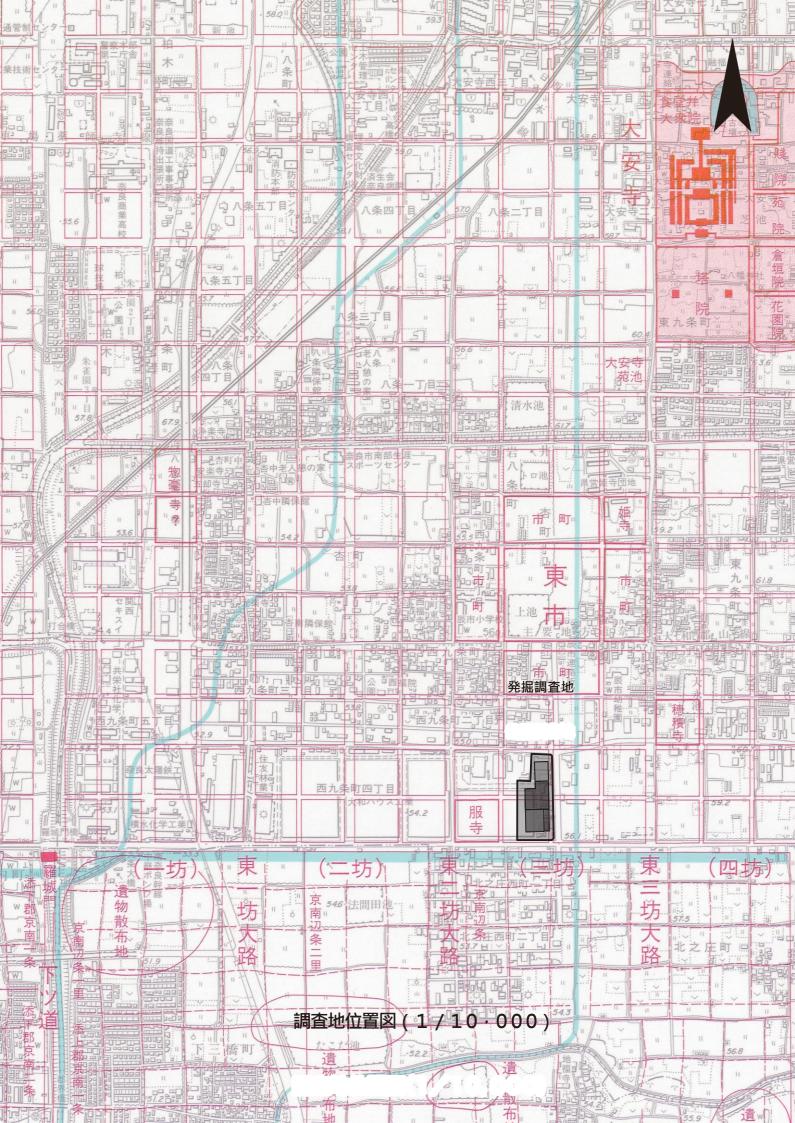
発掘調査の現地説明会について

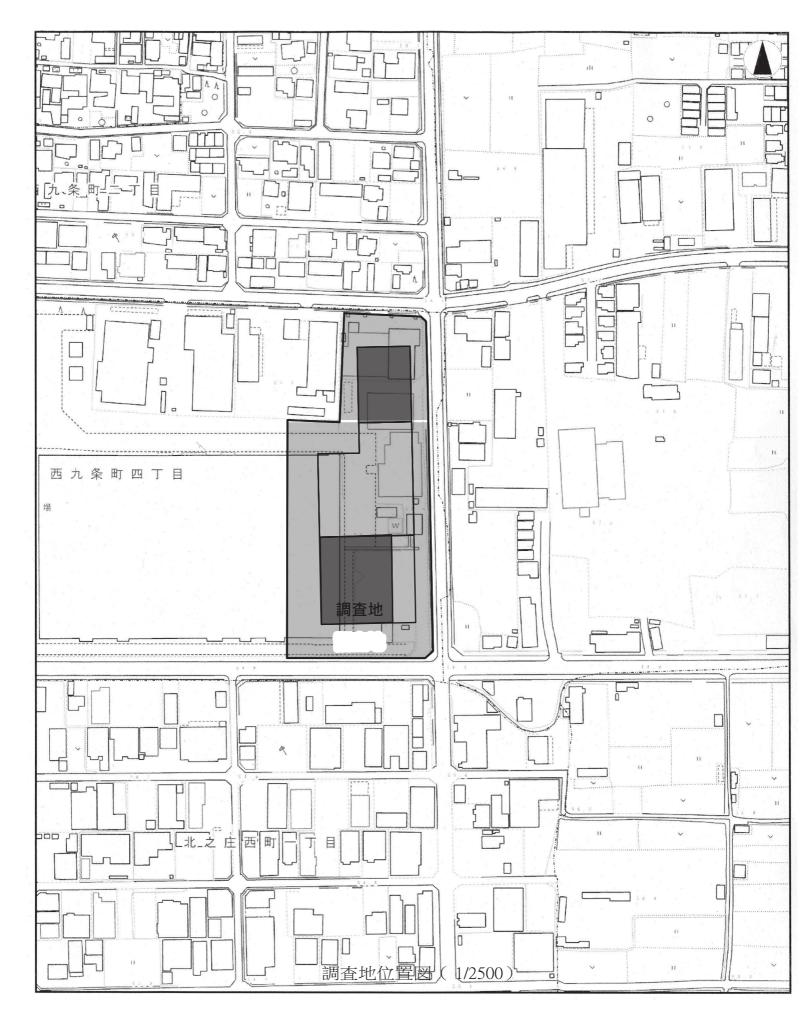
2月3日(日) 10 時から15時まで発掘調査現場の現地説明会を開催いたします。担当者の説明を10時と13時半に2回予定しています。現地には来訪者用の駐車場はありません。公共交通機関をご利用の上、お越しください。(小雨決行)

[本件のお問い合わせ先]

奈良市教育委員会 教育総務部 文化財課 埋蔵文化財調査センター

電話 0742-33-1821





東西・南北方向の坪内涌路が設定され、1坪 坪内を東西南北に四分し、1 /16 分割した字地 坪内を東西方向に四分、南北方向に八分し、1 /32 分割した宅地が作られます。坪内中央の南北 I期(奈良時代後 を 1 /16 分割した字地が作られます。このうち Ⅲ期(奈良時代Ⅲ末~ が作られます。万坪中央部に、幅約 2.5mの南北 Ⅲ期(平安時代初頭) 3区画分を全面調査し、建物配置の全容が判明 方向の坪内通路を設定しますが、東西方向の坪 坪内涌路がⅡ期から引き続き機能し、字地の出入 坐) 平安時代初頭) (9世紀初頭) しましたが、南側と東側は空閑地となってます。 内通路は存在せず、各宅地は東西いずれかに隣 りはⅡ期同様東・西側と思われます。建物の主軸 (8世紀末~9世紀初頭) 接する道路・通路側から出入したと考えられま 方向はほぼ真北を向きます。また建物を建て替え す。この時期の建物と区画溝は、主軸方向 る字地もあり、Ⅲ1期とⅢ2期に 分けられま 六坪 六極 九条条間南小路 す。南端の字地では、Ⅲ2期に東西 が北でやや東に振れているのが特徴です。 の字地を合わせて1/16 分割以上の字地となり 坪内1/4 坪内1/4 坪内1/4 五坪 五坪 九冬大路 九条大路 九条大路 建物4 坪内1/2 坪内1/2 坪内1/2 - 10° C 六坪 ≫- -。- - - 五坪 五坪 五坪 № 建物 28 建物14 建物21____ 建物 29 19930 建物16 建物15 井戸4 建物21 0.0 坪内1/4 坪内1/4 坪内1/4 井戸6個 0 . 建物 43 建物 49 建物 34 建物 31 東三坊坊間路 #戻9 東三坊坊間路 東三坊坊間路 建物 30 🕞 D 建物 40 J.0 V D 0 0 建物 32 ₽ □ 建物 33 井戸1 坪内1/2 坪内1/2 坪内1/2 坪内通路 建物 50 建物 35 井戸15 坪内1/4 坪内1/4 坪内1/4 建物 53 皿1期の 皿2期に立て 坪内1/2 坪内1/4 坪内1/2 坪内1/4 坪内1/2 坪内1/4 替えられる建物 遺構変遷図(1/600)

